

(追悼文)

## 北大核理研での大西明さん

片山 敏之

北星学園大学名誉教授（旧所属 北大核理研、北星学園大学など）

大西明さんは1993年4月、北大核理研にスタッフ（講師）として入られました。前年6月に赤石義紀さんが東大核研に移動していたので、これで北大のスタッフは加藤幾芳さんと2人体制に戻りました。北大核理研には、大学院のM1からD3まで各年1、2名の院生の他に、札幌市内と近郊の大学に勤務する核理論の研究者が数名、各種行事に参加しているのが常の運営でした。私もその一人で当時は主に、核反応データベース（NRDF）管理運営委員会の活動に参加していましたが、着任後の研究室コロキウムで大西さんの研究紹介を楽しく聴いた覚えがあります。

このNRDFは、日本の核データセンターの1つであるJCPRGという組織で核理研が更新・公開しているもので、国内の核反応データを独自の形式で再録し、国際的共通データ形式に変換してIAEAの核データ組織に送信する活動を続けています。大西さんは彼にとって新しい分野である核データの研究開発にも積極的に飛び込んでこられ、着任の初年度からNRDF管理運営委員会の委員に加わり、核データのシステム開発と運用、利用促進および国際協力（国際核データセンターネットワーク：NNDC）に大きな貢献をされました。

少し例を紹介しますと、核反応データの評価システムとしての微視的シミュレーションシステムの構築（NRDF年報1993, 2001, 03）、核データの収集・登録、公開方法における大型計算機からUNIXマシンやPC利用への変更とWWW化（NRDF年報1993, 94, 96）及びNNDCの会議参加などの記録に見られる貢献があります。2007年4月JCPRGは北大大学院理学研究院附属・原子核反応データ研究開発センターに格上げ改組された翌年、大西さんは京大基研に移られました。

個人的には、JCPRGのポータルサイトを運営委員会の要請で一緒に作成した（NRDF年報1996）ことを懐かしく思い出します。1993年に文字と図形を同時に表示可能なWebブラウザであるNCSA Mosaicが登場し、インターネット接続とWWW活用が急速に普及した時期でした。私は1994年度の在外研究をオーストリアのGrazで過ごし、そこでUNIXとWWWを勉強しましたが、大西さんは核物理研究の傍ら既に計算環境の動向を見通していたことに感心しました。

JCPRGの会議は北大核理研の外で行われますが、たまに核理研のセミナーなどに行きますと大西さんの明るい声が響き、院生を集めて議論している様子が常態でした。誰にもフレンドリな性格でした。ご冥福をお祈りいたします。